

# 徳島県のモモ園におけるクビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*)

## による被害状況と試行した防除法

○中野昭雄・渡邊崇人

徳島県立農林水産総合技術支援センター

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) は、中国、朝鮮半島、ベトナム北部などに生息する外来種であり、主にモモ、ウメ、アンズ、サクラ等を加害する。国内では 2012 年 7 月に愛知県海部地域で初めて確認され、その後、本県を含めて 6 都府県で確認されている。

昨年の大会では、本県板野郡板野町のモモ園において、本種による被害(フラスの発生)が初めて確認された一昨年(2015年)の状況、すなわち、30 園地、865 樹のうち、17 園地、130 樹で被害が認められたことを報告した。その後、昨年(2016年)と本年(2017年)も継続して被害状況を調査したところ、昨年は同町内 46 園地、1,178 樹のうち、31 園地、256 樹と、被害園、被害樹とも増加が認められたが、地理的な広がりには認められなかった。しかし、本年は 8 月 10 日時点で同町内 45 園地、1,148 樹のうち、36 園地、284 樹(一部の園未調査のため暫定値)とさらに増加が認められるとともに、同町西隣の同郡上板町においても被害が認められた(上板町内は被害園数、樹数とも現在調査中)。このように、本種による被害が着実に増加、拡大していることがうかがえた。

本種を防除するため、一昨年より樹に穿孔した幼虫を殺虫するため、フェンプロパトリンのエアゾール剤(商品名:ロビンフード)の防除試験を実施したところ、有効な結果をモモとサクラで各 2 例、得ることができ、本年 4 月と 5 月に農薬登録の適用拡大が認可された。また、成虫に対しては、室内における浸漬試験等を実施したところ、DMTP 剤、マラソン・MEP 剤、アセタミプリド剤等のネオニコチノイド剤、新規のジアミド剤の高い殺虫効果が認められた。さらに、日本大学や農研機構中央農研との共同研究により、成虫を捕殺するために、性フェロモン剤の有効性を検証した。この剤は、オスが発しメスを誘引する性フェロモンをもとにカリフォルニア大学の Jocelyn G. Millar 博士らが合成したものである。トラップには吊り下げ式の十字型衝突板トラップ(黒色)を用いた。その結果、昨年実施したモモ園では、フェロモン剤を装着したトラップは、対照のトラップに比べて有意にメス成虫の捕殺数が多く、期間中に園内で確認した 62 頭のメス成虫のうちの 24 頭がトラップによって捕殺された(Xu et al., 2017)。

本講演では、このほかに試行した防除法について紹介するとともに、今後の防除対策について考察する。

Damage caused by the red-necked longhorn beetle, *Aromia bungii* in Peach Orchards in Tokushima Prefecture and trial control method.

Akio Nakano and Takahito Watanabe

Tokushima Agriculture, Forestry, and Fisheries Technology Support Center